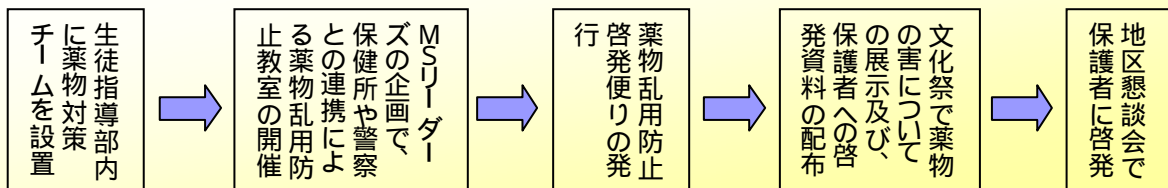


## 事例8「警察と連携し高校生ボランティアが中心となった規範意識啓発の取組」(高等学校)

### 取組のポイント

近年、覚せい剤を中心とした薬物乱用が全国的に増加しており、なかでも中学生や高校生などの未成年者による乱用など低年齢化が進み、深刻な社会問題となっている。このため、正しい知識が不足している若年層も薬物販売のターゲットとなって、学校において生徒の規範意識の向上を図るために、県警が高校生向けに主催する高校生ボランティアである規範意識啓発活動推進委員(通称:MSリーダーズ:マナーズ・スピリット・リーダーズの略)による活動の中で、生徒にその危険性について啓発するとともに、MSリーダーズの企画による薬物乱用防止にかかわる講話を行い、生徒の薬物に対する危機意識を高める。

### 活動の流れの概要



### 教育課程上の位置付け

保健所や警察との連携による薬物乱用防止教室の実施。(総合的な学習の時間)

(教育課程外)MSリーダーズが中心となった社会貢献活動の実施。

### 実施までの経緯

・中学生や高校生などの未成年者による薬物の乱用の全国的な増加。

↓

・校内の生徒指導部内に薬物対策チームを設置。(保健部の協力を得る。)

↓

・学校において生徒の規範意識の向上や薬物に関する知識の増進を図るために、県警が高校生向けに主催する規範意識啓発活動推進委員(MSリーダーズ)による活動を通し、薬物乱用の危険性について啓発を行う。

「MSリーダーズ」の活動とは(県警察本部の取組)

・MSリーダーズ(マナーズ・スピリット・リーダーズの略)は、警察署から認証を受けた生徒達となり、彼らが中心となって、清掃活動や老人ホーム慰問、薬物乱用防止に向けた啓発、少年警察ボランティアと連携した町内巡回、落書き消し、交通指導活動など、模範となるような啓発活動を自主的に企画し、実行する。



### 事前の取組

(学校の取組み)

- ・県主催の薬物乱用防止出前講座に申し込み
- ・講師との打ち合わせ
- ・資料「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を用意、活用
- ・アンケートの用意

・生徒の薬物使用や喫煙に対する意識を把握し、実態に合った講話となるよう、講師と十分に打ち合わせをする

・薬物の危険性についてどの程度認識できたかについてアンケートを行い、次回以降の実施につなげる

## 薬物乱用防止教室の開催

保健所の担当職員を招いて薬物乱用防止教室を実施し、精神面や健康上の害を中心に啓発

趣旨 1年生にとっては高校生活はすべてに目新しい。中学生に比べ少し大人になったと感じる生徒が、巷に溢れる情報をもとに、薬物に対して関心を抱くことが懸念される。危険な薬物から生徒を守るため、薬の専門家である薬剤師から 薬物とは何か、薬物が精神に与える影響について学ぶ

高校生など若年層にも薬物乱用の問題が

深刻化している現実を伝える

薬物の種類、薬物乱用の害

薬物乱用の現状

薬物に手を出さないための心構え



## 警察署の生活安全課長を招聘

ビデオ・講話

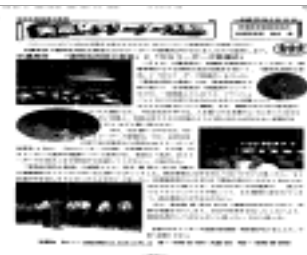
- ・覚せい剤やシンナーなどは、一度経験してしまうと、フラッシュバックなどの作用でなかなか止めることは難しい
- ・社会生活の中では、人を傷つける言葉のように、言ってはならない言葉と、仲間を救うための言葉のように、言わなければならない言葉がある

警察署の生活安全課長から全校生徒の前で直接MSリーダーズの認証式



## 事後の取組

- ・MSリーダーズの活動(清掃活動等)により生徒全体の規範意識の向上を図る。
- ・随時、薬物乱用防止啓発便りの発行(右図)。
- ・文化祭で薬物の害についての展示及び、保護者への啓発資料の配布
- ・地区懇談会で保護者に啓発



## 本プログラム活用により期待される成果と活用上の留意点

### 成果

- ・生徒同士、また教員と生徒の会話の中で薬物についての話題が取り上げられるようになった。
- ・生徒から薬物を売買する不審者等について情報が入るようになり、身近で現実的な問題として、適時、注意を喚起できるようになった。

### 留意点

- ・生徒が自ら拒否できる態度を培っていくためには、MSリーダーズを中心とした生徒の主体的な活動を通じて、常にその危険性を忘れさせないため、継続的な活動が必要である。
- ・保護者や地域住民の薬物に対する危機意識を一層高めるため、MSリーダーズが、今後は保護者や地域住民に対しても、警察署や保健所とも連携しながら、積極的に啓発活動を行っていくこととしている。